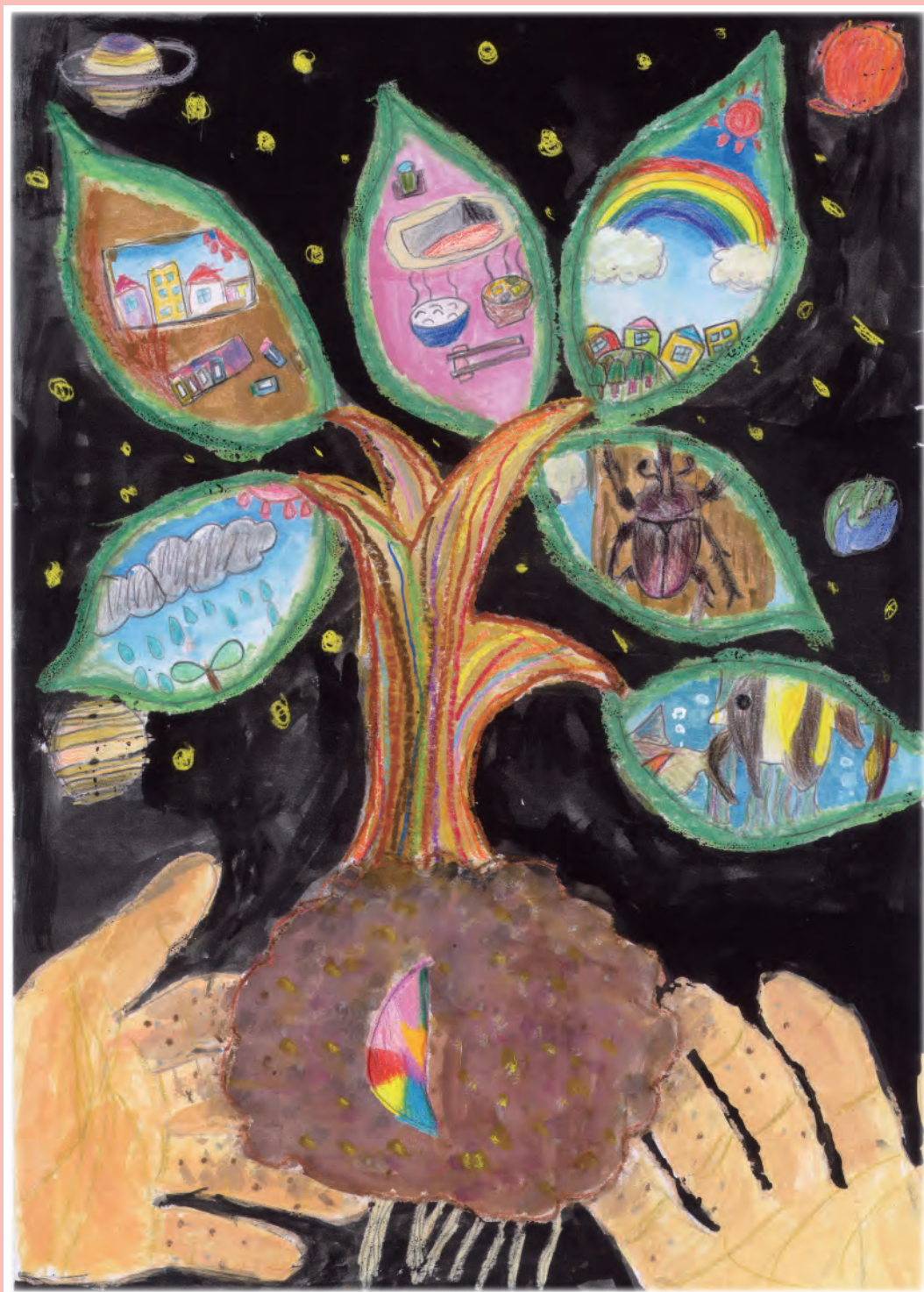


私たちの手で **生物多様性** の恵みを未来に！
いろいろな生きものの
豊かな命のつながり

みどりのトラスト



「緑の募金」で大阪のみどりをもっと豊かに！



- 【コラム】チョウたちとまもる里山―三草山ゼフィルスの森―〈後編〉
- 【特集】ハツチョウトンボが地黄湿地に復活しました！
- 【活動通信】天然記念物 和泉葛城山ブナ林「健全種子」は希少な「宝物」 大切に育苗スタート！
- 大阪里山ネットワーク参加団体募集・緑の募金はこのように使われています

103

2021年1月

チョウたちと

まもる里山

後編

三草山ゼフィルスの森

大阪府立大学名誉教授

石井 実

チョウを指標として森をまもる

ゼフィルスの森のある能勢地域は良質な「池田炭」の産地でした。加えて、石油やプロパンガスなどの化石燃料や化学肥料が普及する1950年代頃までは、薪や炭などの燃料、堆肥や刈敷※などの肥料、木材や食物などの資源を供給する里山林は、農業や生活を営むために不可欠な存在でした。

※刈敷：里山で刈った草木などを田畑に敷き込む形の肥料。

しかし、現在のゼフィルスの森にはもはやそのような機能はありません。事実、開設直後のゼフィルスの森には、林床のネザサが繁茂し立ち入れない場所もありました。

この「里山林の名残り」ともいうべきゼフィルスの森の管理方法を検討するために注目したのがチョウでした。チョウ類は種ごとに幼虫の食草や食樹が異なり、成虫の食物も樹液や草本・木本の花など種によりさまざまです。



(写真1) 縞状管理完成後の林床植生を刈り込んだ区の明るい景観。

※前編は、協会ホームページでお読みいただけます。「ニュース」もしくは、「三草山ゼフィルスの森」ページ)

1992年の調査で49種ものチョウ類が確認されたことは、この森にこれらの種の生活を支える多様な植物が存在することを意味します。実際、イギリスなどではチョウ類のモニタリング調査の結果を里山林などの植生管理に利用しています。

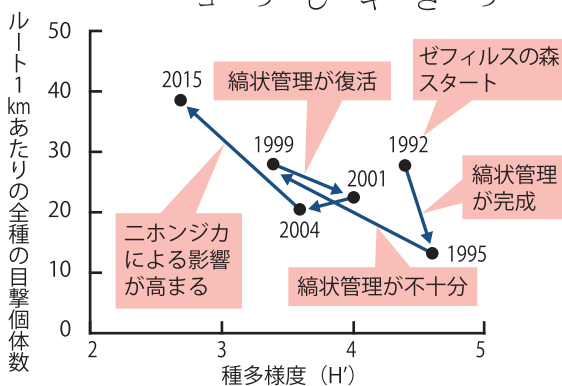
縞状管理を始める

里山林の管理では林床のネザサなどを刈り払い、クヌギやコナラなどの薪炭木を定期的に伐採するのが一般的です。そうすれば明るい林床に多様な草本植物が生育するので、スミレ食のヒヨウモンチョウ類や訪花性のチョウ類には有利に働きます。しかし、ゼフィルスの森にはネザサに依存するヒカゲチョウ類やセセリチョウ類がいることも忘れてはいけません(前編の表1参照)。

そこで採用したのが、ネザサを含む林床植生を刈り込む区と放置する区を25m間隔で交互に配する「縞状管理」でした(写真1、2)。ネザサを残すと藪になりますが、森の乾燥化を防ぎ、ウグイスが営巣するなど生物多様性保全上のメリットもありそうです。

縞状管理が完成した後の1995年に行った調査では、ヒカゲチョウ類の個体数が大きく減少し、逆に明るい林縁を好む訪花性のキタキチョウなどが増加したことがわかりました。その結果、ヒカゲチョウ類に極端に偏っていた個体数のアンバランスが改善し、チョウ類群集の種多様度※は向上しました(図1)。

※種多様度：種の豊かさや均衡性の指標。種数が多く、特定の種への個体数の偏りが少ないほど高い。



(図1) 林床植生の管理状態によりゼフィルスの森のチョウ類群集の密度と種多様度は変化した。



(写真2) 林床植生を放置するとネザサが繁茂して藪状になる。

その後、1996～1999年に林床植生の管理が滞りネザサの敷が広がりましたが、2000年には再び縞状管理が復活しました。この間1999年と2001年に行った調査では、ヒカゲチョウ類の増減とそれにもなう種多様度の減少と増加が認められました(図1、2)。

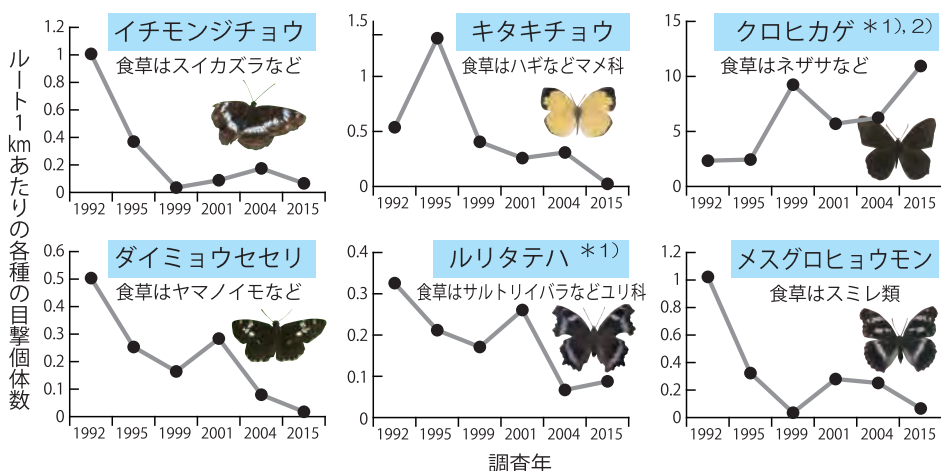
興味深いのはスミレ食のヒヨウモンチョウ類の変化で、1999年が2種4個体だったのに対して2001年には4種28個体と増加しました。林床植生の管理はやはりチョウ類に影響し、強めるとヒヨウモンチョウ類のような林床草本に依存する種が増加し、弱めるとササ食のヒカゲチョウ類が増加することが確かめられたのです。

増大する野生鹿の影響

開設後28年を経たゼフィルスの森は、さまざまな自然の脅威にさらされてきました。2014年にはナラ枯れ*が発生し、ナラガシワやクヌギなどの被害木の伐倒が行われたため、林冠ギャップが広がりました。また、2018年には豪雨により一部で大規模な土砂崩れが起こり、登山道も損壊しました。

※ナラ枯れ：カシノナガキクイムシの食害を受け、ナラ菌によりナラ類が集団的に枯損する被害。

このような被害に加えて、近年チョウ類群集の多様性の減少傾向が明らかになってきました。すなわち、これまでの調査結果を分析すると、



(図2) ゼフィルスの森における1992年～2015年の増減が顕著な数種のチョウの密度変化
*1) 成虫が樹液食。他は訪花性。2) ヒカゲチョウとサトキマダラヒカゲも同様に増加。

ヒカゲチョウ類の増加傾向が顕著なものに対して、ヒヨウモンチョウ類やキタキチョウをはじめ、イチモンジチョウやルリタテハ、ダイミョウセセリなど、低木や草本植物、つる植物を食草とするチョウ類が急速に減少していることがわかりました(図2)。その結果、チョウ類全体の密度が上昇し、種多様度は低下しました(図1)。

これは三草山周辺でも増え始めたニホンジカにより、林床植生に対する採食圧が高まっていることが要因と考えられます。気が付くと、いつの間にか林床を彩っていたツツジ類やスミレ類などが減少し、ニホンジカが嫌うイワヒメワラビやダンドポロギクの群落が目につくようになっていました(写真3)。現在、防鹿柵などによる林床植生保護の対策をとっているところですが、面積が広く、予算や人手を要することでもあり、苦戦を強いられています。

チョウ類を指標としたゼフィルスの森の植生管理は十分可能と思われます。しかし、反省すべきはニホンジカの影響に気づくのが遅れたことです。ゼフィルスの森の管理に終わりはありません。今後もチョウ類調査を定期的を実施し、この森の生物多様性の維持・増進に反映していけるとよいと思います。

参考文献

- ① 石井実(2014) 里山のこれまでに(これから)(生態学会編) pp.42-45. 文一総合出版。
- ② 西中康明(2010) 日本の昆虫の衰亡と保護 pp.104-112. 北隆館。
- ③ 石井実ほか(2019) 地域自然史と保全 41:97-102.



いしい みのる
石井 実

横浜市生まれ。大阪府立環境農林水産総合研究所理事長。理学博士。専門は動物生態学、昆虫学、保全生物学。とくに里山のチョウとその生息場所の保全に関する調査・研究や活動に力を入れている。著書は「里山の自然をまもる」「チョウの庭」「ボルネオの生きものたち」熱帯林にその生活を追って「チョウの分布拡大」など多数。中央環境審議会委員、関西自然保護機構会長、日本自然保護協会評議員、大阪みどりのトラスト協会会長などを務める。



(写真3) ニホンジカが嫌うダンドポロギクの群落。2020年6月撮影。



ハッチョウトンボ 雄

ハッチョウトンボが 地黄湿地に 復活しました！

ハッチョウトンボは1円玉(直径2cm)程度の大きさの日本一小さなトンボで、湿地環境のシンボルともいえる昆虫です。大阪府レッドリストの絶滅危惧I類に分類されており、湿地環境の減少とともに絶滅が危惧されています。

地黄湿地では、外来生物のウシガエルの侵入が確認された平成18(2006)年ごろからハッチョウトンボが姿を消していました。

湿地環境の再生を目指して平成27(2015)年から「地黄湿地再生・保全3カ年事業」をスタートさせ、「日当たりが良く、浅い水域が広がっている環境」の再生が進み、令和2(2020)年、ついに念願の復活を果たしました。

今回は、「ハッチョウトンボが復活した地黄湿地の現況」をテーマに、植生・植物の視点から武田義明先生に、水生動物の視点から平井規央先生に、コメントをいただきました。

地黄湿地の特徴

神戸大学 人間発達環境学研究所

名誉教授 武田 義明



コイヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、イヌノハナヒゲなどのイヌノハナヒゲ類が優占する湿原は、貧栄養の地下水が滲み出すような場所に成立している。この様な湿地は湧水湿地や貧栄養湿地、鉱質土壌湿原などと呼ばれているが、ここでは滲み出す地下水によって涵養される湿原であることから滲水湿原と呼ぶことにする。

近隣の兵庫県では網引湿原、皿池湿原、甲山湿原、丸山湿原など数多くの滲水湿原が確認されているが、大阪府では信太山と地黄以外では知られていない。

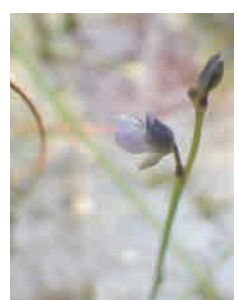
地黄湿地は大阪府北部能勢町の花崗岩地帯の山の傾斜が緩い谷に発達している。この湿地は河川からの水と周辺の斜面から滲み出してくる地下水とで涵養されている。川底の地形によって、水の流れや水位が変わったりするため、それに対応して植生も変化する。湿地の上流側のやや水位が高い場所ではテキリスゲが優占する群落が発達し、水が溜まるような場所では浮葉植物のフトヒルムシロが出現する。また、水位



イヌハナノヒゲ群集



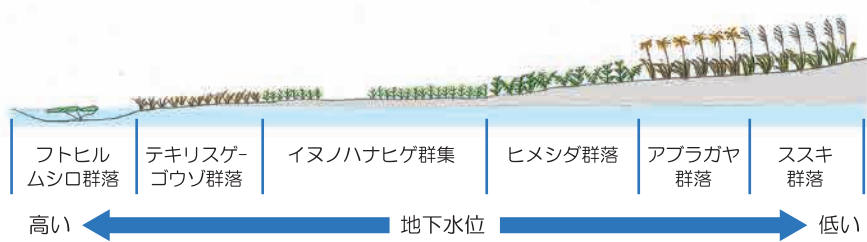
ホザキノミミカキグサ



ムラサキミミカキグサ

が地表面に近く、時々乾くことがあるような場所ではコイヌノハナヒゲが優占する群落が形成されている。このタイプの群落は、植物社会的にはイヌノハナヒゲ群集に同定される。それより水位が低い場所ではヒメシダやヒメシロネの群落が発達している。さらに、水位の低いや乾燥した場所ではススキが優占する群落となり、オオミスゴケも多くなる。オオミスゴケは水に浸かる場所よりやや高いところで半日陰を好む。

地黄湿地のイヌノハナヒゲ群集には、イヌノヒゲ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、スイラン、サギソウなどこの群集に特有な種が多く生育しているが、イヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ミミカキグサ、ミスギボウシ、アマガヤがほとんど見あたらないか



地黄湿地の植生断面模式図 (トラスト協会事務局作図)



スイラン



サギソウ

道が通ってしまつとそこに流水が集中し、深く掘れてしまつ。そのため、さらにそこに水が集中し、周辺が乾く恐れがある。現在、水路を分散させて、河道が集中しない

地黄湿地と

ハッチョウトンボ

大阪府立大学 生命環境科学研究科

教授

平井 規史



ハッチョウトンボは体が小さいにもかかわらず、移動力は高いと考えられています。実際に数百メートルの移動は確認されていますが、条件の良い湿地があると現れることがあるので、もっと長距離を移動できるのかもしれない。大阪府内では、南部も含めて少なからずハッチョウトンボの生息地が知られていましたが、いずれも最近ほとんど確認されておらず、絶滅が心配されています。大阪府レッドリストでは2000年には準絶滅危惧でしたが、2012年の改訂で、いきなり絶滅危惧1類となりました。地黄湿地では2000年ころまでは多数が確認されていましたが、その後確認記録がありませんでした。2020年に少数が発見されましたが、どこからやってきたのか不思議です。ただ、雌も見つかっているので、来年以降繁殖して個体数を増すことが期待されます。



ハッチョウトンボ 雌



ウシガエル

地黄湿地では、1998年の調査で水生昆虫は52種、トンボ類の成虫は29種見つかりました(石井ほか、2000)。その後水環境の悪化やウシガエルの侵入などが

欠いているので、近隣の兵庫県の滲水湿原とは異なる。種組成的にはやや単純化しているといえる。本湿地は谷にあるため、

河川からの流入があり、河

よくに管理されているが、豪雨によって変わる可能性もあるので、常に注意が必要である。また、豪雨によって土砂が堆積したり、流されたりすることで、地形が変わり、植生も変化するので、維持管理のためにはモニタリングが欠かせない。さらに、周辺の樹木が生長し、日陰になると湿原の植物が衰退してしまつので、その管理も継続的に必要とされる。

本湿地は、大阪府内では数少ない滲水湿原のひとつであり、湿地特有のハッチョウトンボも復活しており、かなり希少なものであるといえる。この湿地を適正な管理をしながら後世に残してほしいものである。



ホソミイトンボ



シオヤトンボ



アキアカネ

影響したのか、2008年には水生昆虫の確認種数が著しく減少しました。2017年以降は以前ほどではないものの水生昆虫の種数が回復傾向にあり、ハッチョウトンボが戻ってくることを期待していました。2019年にはホソミイトンボ、シオヤトンボ、ガムシが久しぶりに見つかりました。今年も3回の調査を行いました。ハッチョウトンボをはじめ、アキアカネ、ミルンヤンなども再発見されました。一方で、ウシガエルは依然として少ないながら確認が続いており、在来種への影響が心配されます。1998年の調査で比較的多数いたものの、最近確認されていない種としては、キイトンボ、クロイトンボ、マユタテアカネ、ミススマシ、タイコウチなどがあげられます。今後これらの種も戻ってくることを期待したいと思います。

地黄湿地活動メンバー募集中!

一緒に保全活動・調査などをおこなうメンバーを随時募集しています。

「地黄の森FANクラブ」毎月第4土曜日(11月~3月は、第3水曜日にも実施)

※ 詳しくは、大阪みどりのトラスト協会までご連絡ください。

★地黄湿地は、調査や保全活動時以外、柵内に立ち入ることが禁止されています。

～ 地黄湿地の保全活動は、TOTO水環境基金の助成を受けて行っています。～

天然記念物 和泉葛城山ブナ林 「健全種子」は希少な“宝物” 大切に育苗スタート!

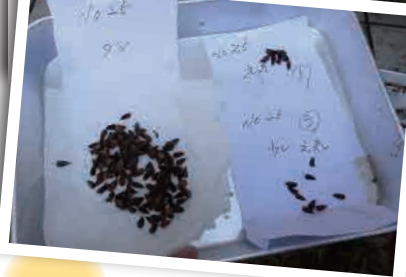
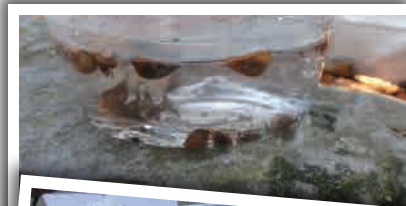
前号で紹介した通り、2020年春、国指定天然記念物の和泉葛城山ブナ林（岸和田市・貝塚市）では、27年ぶりの種子「大豊作」の予測が報告されました。これを受け、衰退の懸念もあるブナ林を将来につなぐため、ブナ林保護増殖検討委員会では、1000本の植樹可能な苗木を得ることを目標に、3000個の種子を拾い集め苗に育てる計画を立て、準備を始めました。

具体的に3000個の種子をどこでどのように育てていくのかが大きな課題でした。さまざまな方面に協力をお願いし、9月末までに地元の畑や環境の異なる植物園・博物館など6カ所の種子受け入れ先が決まりました。また、どのように育てていくのか、文献からの情報収集や専門家の経験をヒアリングして、「ブナ林種子育苗計画・要領」にまとめました。

そして、待ちに待った種子が熟す10月中旬がやってきました。文化財保護法の許可を得た上、専門家や保全活動グループ「和泉葛城山ブナ愛樹クラブ」のメンバーが林内に入り、落ち葉をかきわけながら、



落ち葉をかきわけ
ブナの種子を懸命に拾い集めました



水につけて浮き沈みで
健全種子を選別します



拾い集めた種子を育苗場所へ

1粒また1粒、11月下旬まで地道な拾い集めを続けました。

ところが、期待は大きくはずれ……。拾い集めた種子は、しなびていたり虫食いだったりするものがほとんどで、育苗の対象となる「健全種子」は100個程度となりました。しっかり実った健全種子は水に漬けると沈みます。残念な結果となりましたが、自然には逆らえません。今回集めた健全種子は、さらに貴重な「宝物」になりました。

数は少なくなりましたが、この「宝物」を大切に育てる活動が始まりました。発芽は3月頃を見込んでいます。2年後には少し広い畑に植え替え、3〜5年後に高さ80〜100cmになると、いよいよブナ林（天然記念物指定区域外側のバッファゾーン）への植樹となります。その間の成長の様子、水やりや草取り作業の状況などを育苗シートに記録し、次の種子豊作の機会に活かすことにしています。

2020年生まれのブナが元気に育つように、皆さんも応援してください。

「ブナの森トラストファンド」へのご寄付は、下記にて承っております。

ゆうちょ銀行

支店名：〇九九店（ゼロキウキウ店）

口座：（当座）0140157

（記号番号：00910-5-140157）

加入者名：公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

郵便局の払込取扱票に、「ブナの森トラストファンド」、お名前・ご連絡先を明記の上、上記口座へお願いいたします。

「和泉葛城山ブナ愛樹クラブ」メンバー募集！
P.8 掲載の連絡先へ、お申込みください♪

今年の活動・イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けました。動植物も人も活発になる3月から6月は、ほとんどの予定が中止や延期となりました。徐々に感染状況が穏やかになり始めた7月ごろから、検温・マスク着用・三密を避ける・参加人数の制限などの感染防止策をとった上で、活動やイベントを再開しました。

三草山ゼフィルスの森（能勢町） ～ニホンジカの食害から林床植生を守る～

多様なチョウ類の生息を支える林床の食草・食樹を守るため、大阪府立大学・藤原研究室と連携して、さまざまな保全活動と効果確認のためのモニタリングを行っています。8月5日（水）の定例保全活動では、イボタノキなどのゼフィルス類の食樹の幼木を守るため、段ボール製のマルチングボードを24個設置しました。幼木が周りに生える成長の早いネザサとの光環境の競争に負けられないようにするものです。どれだけの幼木が守れるかを観察していきます。また、その周囲にシカ除けの柵の代わりに水平ネット張りも行いました。これまでは地面と垂直にネットを設置していましたが、低い位置で水平にネットを張ることでシカの足場をなくし侵入を防ぐ試みです。水平張りは強固な支柱を必要としないため、作業の簡略化と経費の節減が図れるものと期待しています。水平ネットに囲まれた区域にシカが入ってこないか見守ります。



奥に見えるのが地面に水平に張ったネット。



マルチングボードの中央の穴から幼木を成長させ周囲のササの成長を抑えます。

タガメの田づくり（能勢町） ～能勢の棚田で稲刈り～

5月の田植えイベントは中止となりました。いつもは泥んこになりながら田定規を使い昔ながらの手植えをしますが、今年は農家のご協力で機械植えをしていただきました。おかげで無事に実り9月20日（日）に稲刈りイベントを開催できました。イベントでは人数制限をしていましたが、当初予定していた半分以上が刈られ、稲木にかけて天日干しされました。途中アカハライモリやコオイムシ、カヤネズミの糞などを発見し、たくさんの生きものが訪れるようになった棚田を満喫しました。当日はすべてを刈り取ることができなかったため、後日「能勢みどりすくらぶ」メンバーが残りの稲刈りを行いました。今年は台風被害もなく、シカやイノシシにも入られることもなく、たくさん収穫できました。自然の風と太陽の光を十分に浴び乾燥させたお米は2週間後に脱穀しました。



鎌で手刈りして束にしてまとめます。



稲木にきれいに並べて天日干しします。

信太の森惣ヶ池湿地（和泉市） ～夏の生きもの観察会～

8月23日（日）、信太の森 FAN クラブの案内で、惣ヶ池湿地を中心に、信太山周辺を散策しました。前年にクラブが新しく設置した木道からは、絶滅危惧種のムカゴニンジンやコモウセンゴケの群落を観察できました。湿地中心部ではコバナノワレモコウやタチカモメツルといった湿地性の植物、飛び回るオオシオカラトンボやショウジョウトンボなどのトンボ類、水の中を泳ぐメダカやニホンアカガエルなどを観察しました。その後、湿地の上部に位置する信太山丘陵里山自然公園予定地の森林を散策しました。ここではキキョウやオトギリソウ等の山野草を見つけることができました。ツツジとススキの草原やアカマツ林などを巡り、市街地に囲まれているのを忘れるくらい生物多様性豊かな信太の森を楽しむことができました。



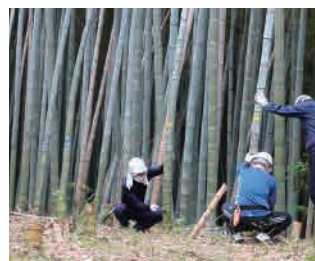
途中の雑木林にて。



純白のサギソウにも出会えました。

（株）立花エレテック CSR ～2021年創業100周年に向けて～

活動地の枚方市東部清掃工場緩衝緑地帯は、もともとは畑や田んぼとして活用されてきた里山でしたが、人の手が入らなくなり、竹が侵入していました。その場所を、春に桜が咲き、近隣市民の皆さんが集う場所にしようと、2019年から活動を開始しました。残念ながら3月に予定していた全体活動や、4月の新入社員研修としての活動は中止せざるを得ませんでした。しかし、竹を伐採し、倒した竹をチップにするといった活動が、事務局のCSR活動担当者を中心に、少人数で月に一度のペースで地道に続けられています。2021年は会社創業100周年を迎えることもあり、11月に記念行事をこの場所で行えることを目指しています。



直径15cmはあろうかという竹。



伐った竹を粉碎機に入れチップを作ります。

林野庁 近畿中国森林管理局 「森林(もり)のギャラリー」でパネル展を開催します

幼稚園・保育園で行う、森林や園庭・公園など身近な自然環境を活用した自然体験の取り組みや学校で行う森林環境教育・森林 ESD などの実践事例を広く紹介するパネル展を開催します。そこに含まれるアイデアやノウハウを共有し、取り組みが広がることを期待しています。

入場
無料

事前
申込み
不要

- 【展示内容】 ① 「森と自然を活用した保育・幼児教育」の取り組み事例
 ② 「森林環境教育・森林 ESD」「緑の少年団」の取り組み事例
 ③ 上記の活動に関連する支援体制・支援施策の取り組み事例

【日 時】2021年2月2日(火)～2月25日(木)
 平日9時～17時(祝祭日は除く)
 【会 場】林野庁 近畿中国森林管理局「森林のギャラリー」
 (大阪市北区天満橋1-8-75 近畿中国森林管理局 1階)
 【アクセス】JR環状線「桜ノ宮」駅 西口から徒歩約5分



※昨年の展示の様子

主 催：林野庁 近畿中国森林管理局
 協 力：(公財)大阪みどりのトラスト協会、(公社)国土緑化推進機構
 森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク

信太の森惣ヶ池湿地(和泉市) 生きもの観察会 ～早春の水辺の生きもの調査～

絶滅危惧種の両生類を守るため、生きもの調査が毎年行われています。さまざまな生き物たちと一緒に探してみませんか？

信太の森FANクラブ

- 【内 容】午前：早春の水辺の生き物調査 午後：信太山周辺の自然観察
 【日 時】2021年2月28日(日)10:00～15:00(予定)
 【集 合】鶴山台惣ヶ池公園信号前入口に9:40
 【定 員】20名 【参加費】無料
 【持ち物】弁当、水筒、タオル、長靴、ゴム手袋、雨合羽、汚れてもいい服
 【アクセス】JR阪和線「北信太」駅より徒歩30分 もしくは、「北信太」駅より徒歩5分の南海バス
 (太町交差点ターミナル)から60系統鶴山台回り「鶴山台4丁目」下車、次の信号(約200m)角
 【申込み】右記の専用申込みフォームからお申込みください。



【専用申込みフォーム】
<https://bit.ly/ogt210228>



下記の電話・FAX・メールでもお申込みいただけます。「イベント名」「氏名(メール・FAXの場合はフリガナ)」「電話番号」をお知らせください。

TEL 06-6614-6688 火曜日～土曜日(祝日除く) 10:00～18:00 FAX 06-6614-6689 E-mail midori@ogtrust.jp

- 少雨決行・荒天中止 ※ 荒天等で中止の場合、当日朝 7:00から ☎06-6614-6688 でアナウンスが流れます。
 ※ キャンセルの場合は、必ずご連絡をお願いします。前日、当日のご連絡は、携帯 090-2590-3175 まで(メール連絡は不可)
 ※ 事前にお申し込みのない方のご参加はご遠慮願います。※ 中学生以下は保護者の同伴をお願いいたします。※ 原則未就学児は参加不可となりますが、保護者の管理下であればご参加いただけます。但し、スタッフによる別途ご案内・補助等はいたしかねますので、保護者の監督・安全管理をお願いいたします。

〈イベント開催について〉
 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からイベントの内容を急遽変更する場合、または中止する場合があります。
 ※ 当日は、検温や名簿記入など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力をお願いします。

大阪府内にて、自然環境・里山保全に取り組む団体の活動にあなたも参加しませんか？

※ ご興味のある方、参加ご希望の方は、各団体の連絡先へ詳細をお問合せください。※ QRコードはメールアドレスです。

ゼフィルスが棲む森～神山の棚田 多くの生きものがすむ里山をめざす

① 三草山ゼフィルスの森 ② タガメの田づくり (能勢町)

【活動日】毎月第1水曜日・第3日曜日

【連絡先】能勢みどりすとクラブ 担当：上野 早受佳

電話番号：090-8886-0837

E-mail：forestgreentreefrog0828@outlook.jp



生物多様性の宝庫！多様な動植物を育む湿地の再生

③ 地黄湿地 (能勢町)

【活動日】毎月第4土曜日 (11月～3月は第3水曜日にも実施)

【連絡先】地黄の森 FAN クラブ 担当：藤原 進悟

電話番号：090-3611-9368

E-mail：twilightflower666@gmail.com



絶滅危惧種キマダラルリツバメの保全と栗林の再生

④ 歌垣銀寄栗の森 (能勢町)

【活動日】毎月第3土曜日

【連絡先】(公社)大阪自然環境保全協会 歌垣 SATOYAMA 楽舎 代表：湯浅 淳子

電話番号：090-8658-3390

E-mail：accha035@gaia.eonet.ne.jp



里山林や果樹園の整備・保全・キツネノカミソリ群生地の再生

⑤ 車作の森 (茨木市)

【活動日】毎月第1・3土曜日 (火曜・木曜の有志活動もあり)

【連絡先】車作里山倶楽部 担当：樋山 信博 (はげやま)

電話番号：090-5664-4023

E-mail：5925sgmf@jcom.zaq.ne.jp



里山保全や間伐材の炭焼き・シイタケ栽培など 憩いの豊かな森づくり

⑥ 島本の森 (島本町)

【活動日】毎月第2・第4日曜日

【連絡先】NPO 法人島本森のクラブ 代表：金山 勉

電話番号：075-203-8708

E-mail：t-kanayama@gaia.eonet.ne.jp



地元学校の「学校の杜」～里山を楽しみ育てる～

⑦ 外院の杜 (箕面市)

【活動日】毎月第3土曜日

【連絡先】外院の杜クラブ 代表：中家 俊治

電話番号：090-3895-9558

E-mail：nakaya-s@aurora.dti.ne.jp



市街地に残された大阪最大の貴重な湿地を守る

⑧ 信太の森惣ヶ池湿地 (和泉市)

【活動日】奇数月：第2水曜日 偶数月：第2日曜日

【連絡先】NPO 法人信太の森 FAN クラブ 代表：田丸 八郎

TEL：090-1225-9159

E-mail：tamahati@amber.plala.or.jp



里山保全・間伐材の薪づくりやシイタケ栽培など持続可能な森づくりをめざす

⑨ いずみの森 (泉佐野市)

【活動日】木曜・土曜など ※ 詳しくは、ご連絡ください。

【参加連絡先】大阪みどりのトラスト協会 (飯野)

TEL：06-6614-6688

E-mail：midori@ogtrust.jp



農村の生活を学び 楽しく里山保全活動を行う企業 CSR の森

⑩ 堀河の森 (泉南市)

【活動日】年に4回 (不定期)

【参加連絡先】大阪みどりのトラスト協会 (飯野)

TEL：06-6614-6688

E-mail：midori@ogtrust.jp



美しい里山の生成 放置林や竹害など保全活動で地域に貢献

⑪ 蕎原の森 (貝塚市)

【活動日】毎月第1・第2・第3・第4土曜日

【連絡先】里山ボランティアの会蕎原 代表：藪 (やぶ)

TEL：090-6829-0353

E-mail：takkun@sensyu.ne.jp



国の天然記念物 貴重な美しいブナ林を守る

⑫ 和泉葛城山ブナ林 (岸和田市・貝塚市)

【活動日】第1日曜日・第3土曜日、第4木曜日 (1・2月休み)

【連絡先】和泉葛城山ブナ愛樹クラブ 担当：山條洋浩

TEL：090-7103-4615

E-mail：bkcdy107@rinku.zaq.ne.jp



2021年
3月末公開予定
準備中

名称決定♪ 里山保全活動の情報サイト / 参加団体募集中!
「大阪里山ネットワーク」 一次募集: 2021年2月末締切



※ サイトイメージです。

- 団体の特徴や活動内容、活動日や連絡先などを定型のフォーマットにまとめ、団体ごとのページを作成します。(ホームページを立ち上げていない団体も参加いただけます。)すでに団体のホームページがある場合は、フォーマットの中に記載したURLからリンクをはります。
- 参加団体が行うイベントや講習会などの周知・PRに活用いただけます！

※ 参加申込書は、当協会HP (<http://www.ogtrust.jp>) からダウンロードできます。
※ 3月末の公開のため、2月末にいったん締め切りますが、来年度以降も随時受け付けを行います。

★ 公開後も参加団体のニーズを踏まえつつ、さらに充実させていきますので、ご意見をお寄せください。(担当:飯野)

の取組みに役立っています。



みどりづくりの輪活動支援事業

みどりづくりの輪活動支援事業は、「緑の募金」を財源に、子どもや多様な市民等の参加による、良好な森林や里地・里山の保全、市街地の緑化や自然環境保全活動に助成するものです。2019年度に行われた事業をご紹介します。

大阪市立泉尾東小学校

校庭にある人工滝の下にあるくぼみ池の濁った水に砂利を投入し、水を循環させることにより、メダカが棲むビオトープとして再生しました。子どもたちは、目には見えないバクテリアなどが水を綺麗にしていることを理解しました。水が澄んで中の様子がわかるようになり、休み時間や放課後には生き物の観察に来る子どもたちが増えています。



みんなで協力して砂利を投入。



メダカの卵さがし中。

東大阪市立楠根東小学校

校庭にあった既存の池を改造し、生態系ピラミッドが学習できるビオトープをつくりました。臨時休校期間があったため、本格的な取り組みがはじまったのは、暑い夏の時期からでした。子どもたちは、穴掘りや土運び、土固めなど一生懸命頑張りました。新しくできた池には、絶滅危惧種のメダカや水草のウリカワがあります。みんなで大切に育てていきます。



穴掘りに一生懸命頑張ります。



完成したビオトープにメダカを放流。

大阪市立茨田東小学校

学習園の一面にビオトープ池をつくり、茨田地域の伝統的作物である「蓮根」を復活させました。子どもたちと保護者・教職員・PTAの協働によるビオトープづくりは、たいへんな労力が必要でした。完成したビオトープを維持管理することで、子どもたちと自然とのかかわりが深まることが期待されます。蓮根の収穫も待ち遠しいですね。



できたばかりの池に蓮根を植え付け。



こんなに大きくなりました。



2020年度の緑の募金を財源とした助成事業は以下の学校・園に決まりました。

「みどりづくりの輪活動支援事業」、「『学校に森林と木の香りを』整備事業」の2事業について、10月15日に審査会を行い、以下の計5件の採択が決定しました。本事業は、子どもたちが「生物多様性」や「循環型資源としての木材の活用」について、理解を深めることを目指して実施しています。

事業	申請団体	活動の種類・内容
みどりづくりの輪 活動支援事業	豊能町立東ときわ台小学校	【ビオトープ整備事業】 ビオトープの補修
	池田市立緑丘小学校	【ビオトープ整備事業】 既存の池のエコアップ
「学校に森林と 木の香りを」 整備事業	河内長野市立三日市小学校	【木材を使った机、椅子、建具等の整備】 木製ベンチの製作
	大谷さやまこども園 緑育の会 (大阪狭山市)	【木材を使った机、椅子、建具等の整備】 園庭の木製テーブル、イスの製作
	社会福祉法人 博光福祉会認定こども園 彩つばさこども園 (吹田市)	【森林ESDの実施】 木育イベント開催

緑の募金は【森林ESD】



平和の緑づくり

大阪府内北摂地域の平和堂店舗で、無料レジ袋配布中止に伴う有料レジ袋の収益金を「緑の募金」としてご寄付いただき、「子どもたちによる植樹」と「みどりの教室」をプレゼントする事業です。

柱本保育園こども未来学舎 (高槻市)

ドングリの木というリクエストで選定されたマテバシイの木。大きく育てて日当たりの良い園庭に気持ちいい木陰をつくるでしょう。また、ドングリを拾って遊んだり、アクが少ないので、炒って食べたり、クッキーの材料にできるかもしれません。植樹のあとは、森林インストラクターの山崎春人さんによる「みどりの教室」も行いました。タラヨウのはがき、スカンポのたて笛など、木の枝や葉を使った遊びを楽しみました。



紙芝居でマテバシイの特徴や育て方を教えてもらいました。

大きく育ててドングリがたくさん実りますように！



ツバキの葉笛は全員が鳴らせるようになるまでがんばりました。



緑の少年団

緑の少年団は、次代を担う子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした団体です。

羽曳野市緑の少年団

今年度はコロナ禍で大阪府緑の少年団連盟の交流集会中止や、各団も活動や街頭募金活動を自粛するなど大きな影響を受けています。そんな中、11月7日に毎年実施している“駅前花いっぱい活動”を近鉄高鷲駅前で行いました。この活動の様子は、11月22日に滋賀県で行われた水源の森サミットのリモート交流会でも放送されました。また午後からは、おおさか「山の日」の活動として、上の太子観光みかん園へ行き、みかん狩りやアスレチックを楽しみました。



色とりどりのパンジーを植えました。

自分たちの活動をPRしました。



緑に囲まれたアスレチックでのびのび遊びました。

緑の募金にご協力ください

近年、緑の募金は減少傾向にあります。今年度はコロナウイルスの影響で、街頭募金などが中止・延期となり、年間を通じて行われる各種募金活動も影響を受けており、募金額の大幅な減少となっております。みどりの未来を担う子どもたちへの助成・森林環境教育推進等が途切れないよう、引き続き事業を進めていくために、緑の募金のお取組み・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

緑の募金へのご協力は、こちらへ

- ゆうちょ銀行
- 【加入者名】(公財)大阪みどりのトラスト協会 緑の募金
- 【店名】〇九九店(ゼロキュウキュウ店)
- 【口座番号】(当座)0101846
- (口座の記号番号:00910-4-101846)

- ◆ 一緒に取り組んでいただける団体・企業・学校・自治会等、随時募集中です！募金の呼びかけに必要なチラシや募金箱などの募金グッズを提供します。お気軽にお問い合わせください。
- ◆ 募金実施団体(自治会・学校・団体等)が、募金活動をすると、集めた寄付金の40%は、「緑化事業等交付金」として募金実施団体に交付され、身近な緑を増やす活動に使用することができます。

「みどりのトラスト」年一回発行への変更、及び 今後の大阪みどりのトラスト協会について



常務理事 長井 聖治

日頃より当協会の事業にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

会報誌「みどりのトラスト」について、今年度は年2回の発行といたしました。来年度からは年一回、年次報告書形式での発行に変更させていただきますことになりました。次回発行は令和3年7月頃の予定です。各事業やイベントの最新情報は、ホームページやメールマガジン、SNSでの発信を充実させていただきます。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

今般のコロナ禍は、当協会の運営にも大きな影響をもたらしました。イベントや活動の中止、リモートや書面決議での会議の開催、職員のテレワークや時差通勤の実施など、今まで考えてもみなかったことが現実となりました。また緑の募金収入の大幅な減が予想され、事業の中止や縮小も余儀なくされました。

世界に目を向けると、生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)は、やはり新型コロナウイルスの影響で来年に延期されましたが、9月には「地球規模生物多様性概況第5版(GBO5)」が発表され、国連生物多様性サミットがオンラインで開催されました。

こうした中で、one health(ワンヘルス)という言葉をよく目にするようになりました。新型コロナウイルスのような新興感染症の原因として、人間の活動による自然環境への過度な侵入や、自然環境の改変により、野生動物との適切な距離感が失われ、動物が保有するウイルスが人間にも伝わるリスクが高まったことが考えられることから、人間と動物と環境の健康(健全性)をひとつのものとして考える必要があることを説明する言葉です。

身の回りに立ち戻って振り返ると、遠い世界の出来事のように感じられることも、私たちの生活様式や消費行動とつながっていることがわかります。私たちの暮らしは、身近にある自然とのつながりが希薄になりながら、他の国の自然環境に大きな負荷をかけることで成り立っているのが現実です。世界で起こっていることにも、自らの生活や足元にある自然を

年1回の会報誌とあわせて、このような方法で情報を発信いたします.....

メールマガジン配信 ご登録ください!

2021年2月、いよいよスタート!
月に1回程度、活動の様子やイベントの
情報などを中心に配信します。
メールアドレスのご登録を受付中です。

＼ご登録はこちらのアドレスから／

<http://bit.ly/ogtmail>



ホームページ

＼アドレスはそのまま!／
<http://www.ogtrust.jp/>

2021年3月下旬リニューアル!

- 「和泉葛城山ブナ林」「三草山ゼフィルスの森」「地黄湿地」の保全や調査についてや「緑の募金」の活用など、最新の情報を随時公開します。
- イベントへの参加、各種事業の申請など、知りたい・探したい情報がすぐ見つかるサイトにします。
- スマホでも、タブレットでも、もちろんPCでも見やすくなります。
- 全ページSSL対応でセキュリティ面も安全です。

ジェルフ JELF「みどりの遺言」プロジェクトの推薦団体として認められました。

一般社団法人JELF(日本環境法律家連盟)は、持続可能な社会の実現をめざし、日本各地の環境保護に取り組む全国450名からなる弁護士の団体です。

その団体が行う「みどりの遺言」プロジェクトは、環境問題や社会貢献活動を行う団体を資金面から支援するため、支援者と団体をつなぐ仕組みです。

JELFは、組織運営の適正さや活動内容の社会的意義などの観点から審査を行い、安心して遺贈・寄付できる団体を推薦しています。また、JELFを通じて遺贈・寄付が行われた際は、それらが適正に利用されたかのチェックも行います。この度、当協会も遺贈・寄付先の推薦団体として認められました。

【JELF「みどりの遺言」プロジェクト 問合せ先】

※ 遺贈・寄付の流れについてや、相続問題や遺言の一般の相談もできます。

電話：03-6264-7330（アーライツ法律事務所内）

E-mail：midori@green-justice.com

協会の遺贈に関するリーフレットを作成しました。

※ ご希望の方にお送りしますので下記までご連絡ください。

電話：06-6614-6688 E-mail：midori@ogtrust.jp

ファンドレイジングプラットフォーム Syncable(シンカブル)に登録しました。

Syncable(シンカブル)は、さまざまな課題に取り組む団体情報を公開し、支援を必要とする団体と、支援を通じて社会貢献したい個人をつなぐファンドレイジングサイトです。このサイトに当協会も登録しました。

このサイトを通じて、「自然環境保全や里山保全に関心はあるがトラスト協会のことは知らない」という方に、協会のことや実施している事業のことを知っていただくきっかけとなればと思っています。

また、これまでご寄付やご入会(会費)は銀行振込をお願いしておりましたが、Syncableを経由することで、クレジットカード決済もお使いいただけるようになりました。

今後、同サイトにて、事業推進のためのキャンペーンなども企画・実施しますので、皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

Syncable 大阪みどりのトラスト協会 登録ページ

<https://syncable.biz/associate/osakagreentrust/>

深く見つめることで見えてくるものがあるように思います。
当協会は、大阪府内で希少な動植物が生息する環境や里山の保全、身近なみどりを増やす事業をおこなってまいりました。それは、都市化が進む中で、人の生活と自然とのあるべき関わり方を見出そうとする試みであるとも説明できます。そのためには多くの人の協力も、経済的な裏付けも必要です。困難な問題に直面することも多いのです。しかし、現況のような社会の中で、当協会の事業の重要性は、ますます高まっていくものと考えます。
生きものや里山の環境を守り、みどりを守ることが、府民の皆様の健康的で安全な生活にもつながることを願って、これからも息の長い活動を続けていきたいと思えます。

..... これからは、皆さまに

YouTube 動画配信します！

観察会や活動の様子などを公開します。専門家の解説や、文字・写真ではお伝えしきれない情報を動画でお届けします。

Facebook・Instagram 活動の様子発信中！

今の様子を随時お知らせしています。

大阪の大切なみどり、自然を守りたい！みなさまのご支援は、大阪みどりのトラスト協会の大切な活動資源です。みなさまと共に、今ある大阪のかけがえのない自然環境を次世代に引き継ぎ、みどり豊かな大阪の未来を創っていく取組みに、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

入会のご案内

活動を支援して下さる会員を募集しています。あなたの会費で、大阪の貴重な自然環境の保全をします。

会費は、年度会費となります。入会申し込みいただくと会員として登録し、会員証を発行いたします。(入会金は不要。毎年4月が更新月となります。)

【年度会費】個人 1口 3,000円～
企業・団体 1口 10,000円～

【会員特典】・会報誌をお届けします。
・協会主催のイベント等の割引 ・協定施設の優待割引

寄付のお願い

事業を進めるためのご寄付を募っています。

協会へのご寄付、ご入会は、下記の口座にて承っております。



ゆうちょ銀行 (記号番号: 00910-5-140157)
〇九九店(ゼロキウキウ店) (当座) 〇140157
<加入者名> 公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

郵便局の払込取扱票に、お名前・ご連絡先を明記の上、上記口座へお願いいたします。(ご入会の場合は、「入会希望」とご記入ください。)

遺言による寄付(遺贈)や、相続に関する寄付も承っております。

緑の募金

書き損じハガキなど、不要になった物品の寄付は「緑の募金」の支援方法のひとつです。

あなたの家に眠っている「お宝」で、大阪の緑づくりをご支援ください!



◆どんなものを送ればいいのか?

トラスト協会ホームページ「募金をする」のチラシをご覧ください。

⇒ <http://www.ogtrust.jp/midori/about/fundraising.html>

◆ゆうパック(日本郵政)の着払いでお送りください。
※イベント時の持参、協会への持ち込みもOKです。

(注)寄付物品はトラスト協会ではなく、直接下記の「お宝エイド受付センター」住所へお送りください。

※着払い伝票の品名に、

必ず「大阪 緑の募金」とお書きください。

【送り先】〒153-0063

東京都世田谷区大原2-23-17-1F お買取屋さん 東京本店内
お宝エイド 受付センター東京 ☎ 03-6265-7595

オリジナルの緑化ピンバッジを申込んで、緑の募金にご協力ください。



1個 300円以上の募金をお願いしています。
サギソウ ササユリ ヤマアジサイ ヤマフキ コバノミツバツツ
※ホームページに掲載以外のバッジもごさいます。ぜひご覧ください。

<申込み方法> 郵便局に設置されている払込取扱票に次の内容を記入し、お申込みください。

口座記号番号 … 00910-4-101846

加入者名 … (公財)大阪みどりのトラスト協会 緑の募金

金額 … 個数×300円と、送料120円の合計金額を記入

通信欄 … バッジの種類と個数を明記

ご依頼人の郵便番号、住所、氏名、電話番号

※払込取扱票は窓口またはATM機をご利用できます。

※振込手数料は窓口130円、ATM80円

※新作ナワシロイチゴをお申込みの場合は、3月の発送となります。



(原寸大)
ナワシロイチゴ
3月に新作登場!
お楽しみに♪

※協会への寄付金・緑の募金は、所得控除や税額控除など、税制上の軽減措置を受けることができます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

【みどりすと】募集中!みどりを守る活動にご参加ください

自然が好きの方、身体を動かしたい方、環境のために何かやってみたい方、まずは一度、お近くの活動地やイベントへご参加ください!

- 府内にある活動地で実際に作業や調査を一緒に行い、貴重な自然環境や里山、そこに住む動植物などを守っていただける方
- 次世代を担う子どもたちに自然体験学習や自然環境学習を提供し、みどりのトラスト運動の普及・啓発をしていただける方
- イベントなどで自然素材を使ったクラフトの講師をしていただき、広く自然や緑の大切さを伝えてくださる方

協会事務所で会報誌の発送作業などをお手伝いいただける方を随時募集しています。(交通費実費支給)まずは、協会までご連絡ください。



～みどりの未来を私たちの手で～

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

<http://www.ogtrust.jp/>

〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATCビルITM棟11F西
電話: 06-6614-6688 FAX: 06-6614-6689 E-mail: midori@ogtrust.jp

facebookで、
協会の活動を
発信中。

「いいね!」
シェアお願いします!



Instagram

はじめました。



OSAKA.GREEN.TRUST